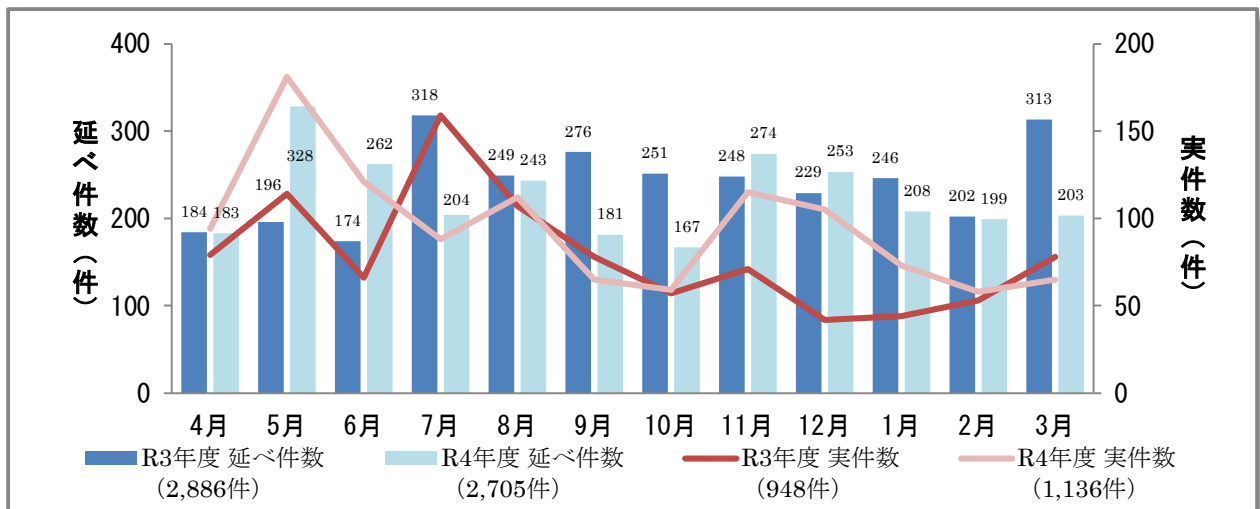


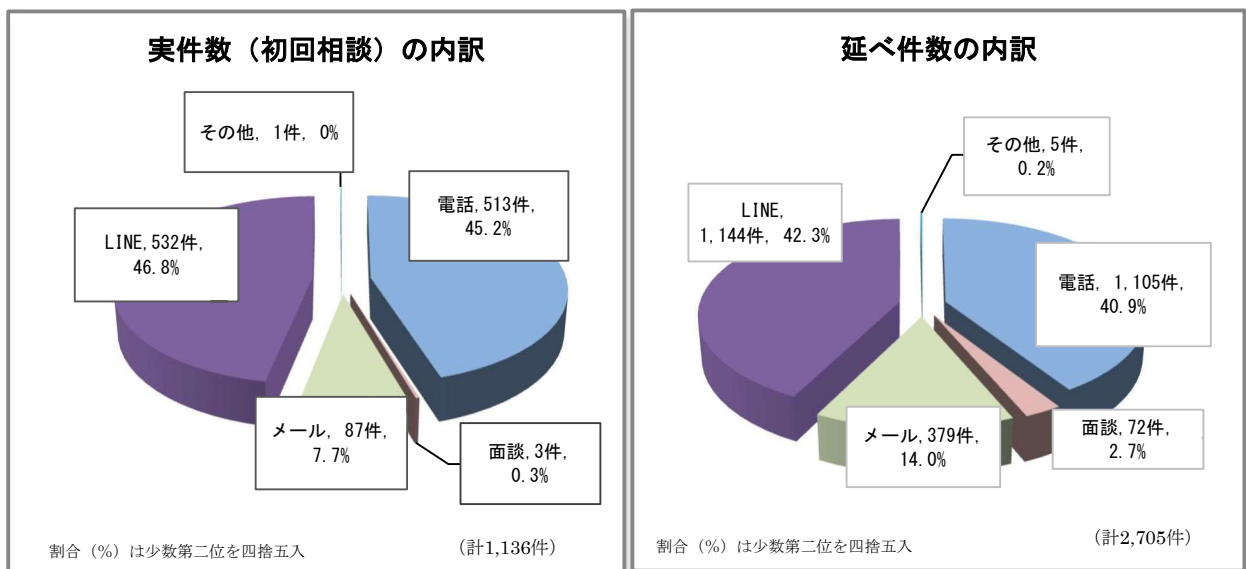
# V 令和4年度の統計データ詳細

## 1 月別相談受付状況



令和4年度は、5月に小中高校生へ子ども用相談カードを配布したほか、新学期開始から6か月経過した10月から11月にかけて小中高校生に新デザインの子ども用相談カードを配布しました。特に相談カードの配布直後には、相談件数が増加する傾向にあります。また、夏冬休みが終わる時期にLINE広告を配信しました。

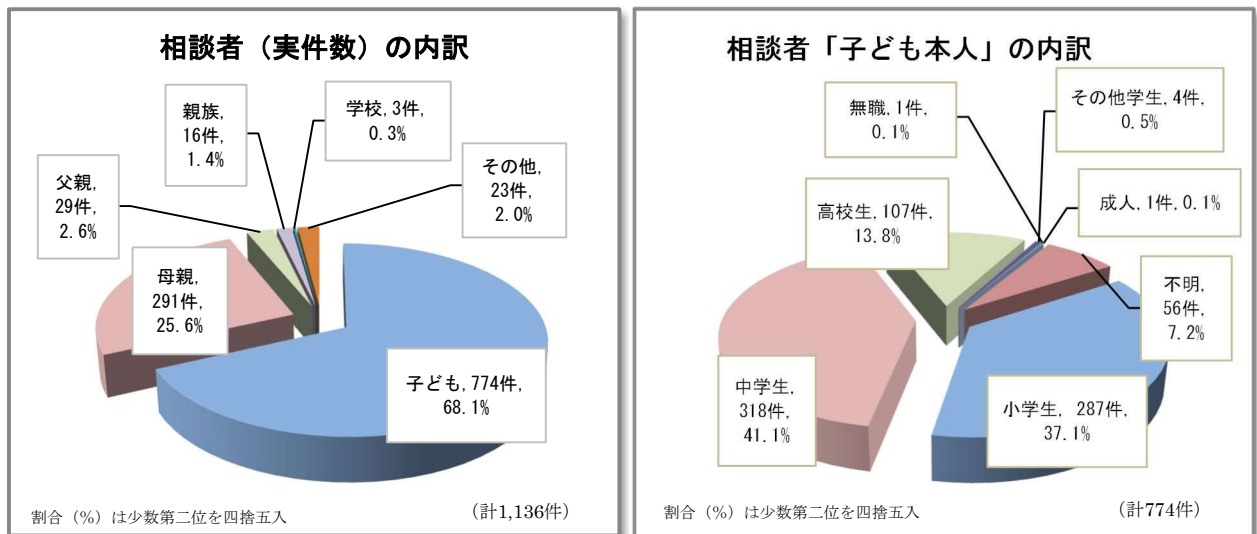
## 2 相談方法の内訳



実件数（初回相談）は、LINEによる相談が最も多く、次いで電話による相談が多くなっています。また、延べ相談件数においても、LINEによる相談が電話による相談を上回り、全体の42%を占めています。

なお、メールによる相談は、やり取りに回数を要することが多いため、実件数（初回相談）では8%ですが、延べ件数では14%となります。

### 3 相談者、相談者「子ども本人」の内訳



相談者とは、相談してきた人のことをいいます。子ども本人からの相談が多く、全体の68%です。次に多いのが母親で、本人と母親を合わせると全体の94%を占めています。

また、子ども本人の相談の内訳では、前年度同様、中学生からの相談が最も多くなっており、子ども本人の相談者全体の41%を占めています。

延べ件数における相談者と相談方法の集計は、下表のとおりです。

子ども本人からの相談は、令和2年度より通年実施したLINEによる相談の割合が多く、LINEは子どもにとって気軽に相談できる方法であることがうかがえます。

相談者と相談方法（延べ相談者数）

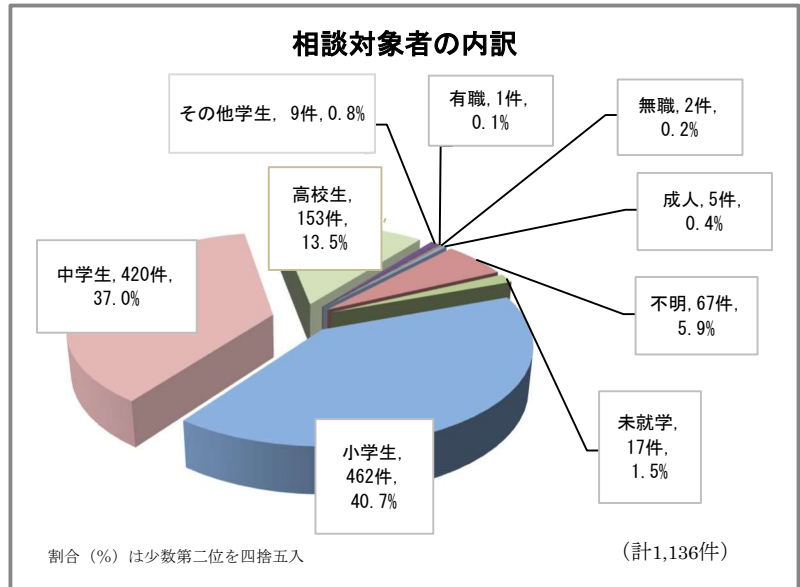
区分	子ども本人	父親	母親	親族	学校	その他	合計
電話	394	47	529	20	27	88	1,105
	14.6%	1.7%	19.6%	0.7%	1.0%	3.3%	40.9%
面談	47	3	12	2	3	5	72
	1.7%	0.1%	0.4%	0.1%	0.1%	0.2%	2.7%
Eメール	206	4	110	2	9	48	379
	7.6%	0.1%	4.1%	0.1%	0.3%	1.8%	14.0%
LINE	1,141	1	1	0	0	1	1,144
	42.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	42.3%
その他	0	0	0	1	0	4	5
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%
合計	1,788	55	652	25	39	146	2,705
	66.1%	2.0%	24.1%	0.9%	1.4%	5.4%	100.0%

※相談者が複数の場合があるため、相談者数の合計は相談件数と一致しない。

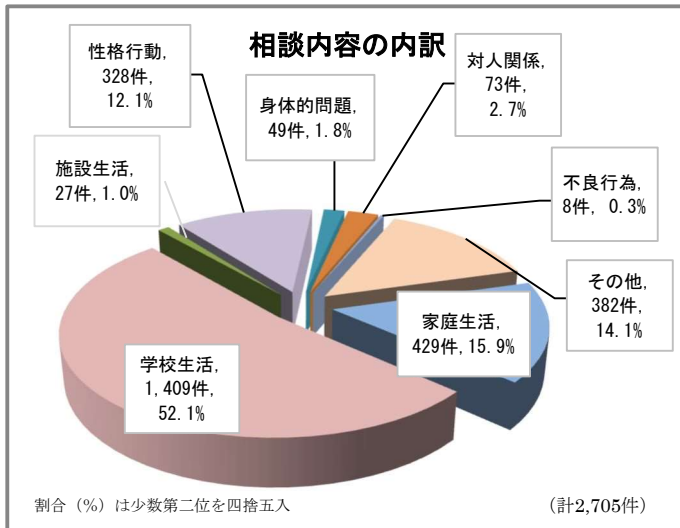
※割合は小数第二位を四捨五入

#### 4 相談対象者<sup>(5)</sup>の内訳

相談の対象となった子どもの内訳は、小学生が41%、中学生が37%、高校生が14%となります。



#### 5 相談内容の内訳



子どもアシストセンターでは、相談内容を「家庭生活」、「学校生活」など8項目に分けています。

延べ件数全体で相談内容の内訳をみると、「学校生活」に関する相談が一番多く、次に「家庭生活」、「性格行動」の順に続きますが、これは例年と同様の傾向です。

さらに相談内容を33の細目に分けると、上位5項目は、下記のとおりです。

子ども (1,788 件)		大人 (917 件)	
① 友人関係	388 件 (21.7%)	① 不登校	144 件 (15.7%)
② 精神不安	206 件 (11.5%)	② 子どもと教師の関係	90 件 (9.8%)
③ 親子・兄弟関係	140 件 (7.8%)	③ いじめ	59 件 (6.4%)
④ 学習・進路	96 件 (5.4%)	④ 養育・しつけ	48 件 (5.2%)
⑤ いじめ	87 件 (4.9%)	⑤ 友人関係	46 件 (5.0%)

##### (5) 相談対象者

相談の対象となっている子どもを指します。母親から小学生に関する相談があった場合には、「相談者」は母親となり、「相談対象者」は小学生となります。中学生の子ども本人が自分のことについて相談してきた場合には、「相談者」は子どもとなり、「相談対象者」は中学生となります。